

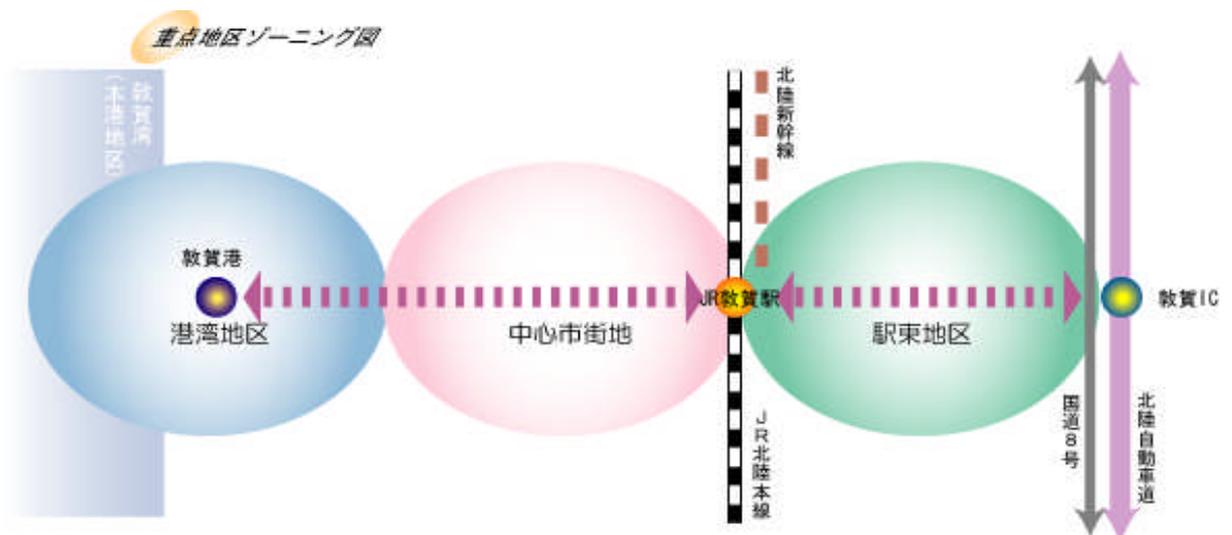
5. 重点方策

5-1 重点方策の基本的な考え方

本市が、ダイナミックに飛躍するためには、的を絞った施策展開が必要です。そこで、この重点方策では、都市計画マスタープランにおいて、敦賀のイメージとして大切な地区、または早急に整備が必要とされている地区等について、具体的な整備の内容について示すものです。

5-2 重点地区の抽出と整備の方針

- 港湾地区……敦賀新港の整備進展とあわせ、本港地区においては港町敦賀の持つ自然、歴史、文化的な資源とウォーターフロントのロケーションを活かした宿泊施設や飲食施設などの整備を進め、商業活性化を図ります。
- 中心市街地……中心市街地活性化基本計画に基づき、敦賀の歴史や文化に根ざした、既成市街地の再整備や新しい市街地拠点の整備などを進め、活力と魅力ある中心市街地を形成します。
- 駅周辺地区……敦賀駅前や駅周辺の潜在的用地を再開発事業等の手法を活用して、情報・宿泊などの複合機能の充実を図るとともに、新幹線整備計画の具体化を契機として、駅東地区の新たな都市拠点化を図り、街のシンボル地区を形成します。



5-3 整備プログラム

重点地区	主要施策	施策内容	短期	中期	長期
港湾地区	海を活かしたテーマタウン	本港周辺の再生、松原公園の整備	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	歴史的街並み整備	歴史的街並みの再整備と景観整備	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	観光・交流ゾーン	船溜まり周辺の飲食・娯楽型商業地整備	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	新港機能の拡充	港湾用地の活用、背後の流通業務機能	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
中心市街地	国道8号空間整備	国道8号道路空間の再配分	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	気比神宮周辺アメニゾー	気比神宮前の商業活性化	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	多世代居住型市営住宅整備	多世代居住型住宅への再整備	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	歩いて楽しい 道づくり整備	駅から港までの歩行環境の改善 歴史・文化探索ルート <small>(ポケットパーク・ トイレの整備など)</small>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
駅周辺地区	駅舎改築・駅周辺整備	敦賀駅舎改築と駅前地区の再開発	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	都市拠点地区の整備	JR敦賀駅東地区での広域拠点機能	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
共通項目	秩序ある土地利用・景観形成	土地利用調整条例・景観条例・地区計画の活用	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

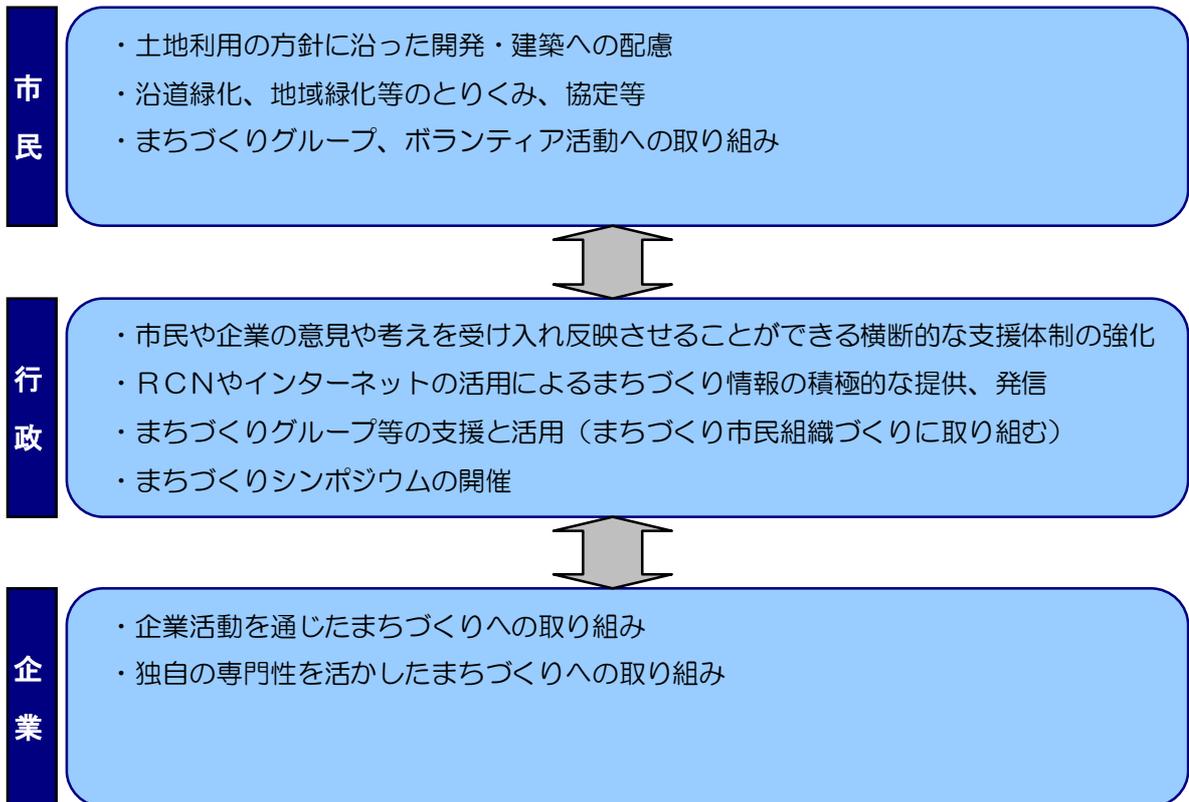
※短期・中期・長期の考え方
 短期：～5年 中期：5～10年 長期：10年～

5-4 実現に向けた住民と行政の役割分担

全国的に市民参加の動きが進む中、敦賀市内においても、まちづくりグループ等の市民団体が組織化されつつあります。

今後、住みやすく活力あるまちづくりの実現するためには、行政だけでなく、市民、企業が得意とする分野を、それぞれの役割としてまちづくりに活かすことが求められます。

それぞれが担うべき役割は、次のように整理できます。



5-5 都市計画マスタープランの見直しについて

都市計画マスタープランは、都市づくりの方向性や短・中期的に実施すべき施策を示すものですが、本市を取り巻く社会情勢は刻一刻と変化しており、策定の基礎となっている数値的根拠も時間とともに変化します。

このため本計画は、時代や財政状況に応じて、重点的な投資、継続的な投資など都市投資の配分にも柔軟に対応し、都市づくりの目標を今後も継承しつつ、計画が硬直化しないよう次のような視点で見直しを行います。

1. 都市計画基礎調査に基づき、本計画策定の基礎的条件となる都市データを更新し、その変化に応じて次のステップを見据えたプランの見直しを行います。
2. 上位計画の改定に併せ、その内容と十分な調整を図り、全体的な見直しが必要となる場合と、部分見直しで足りる場合を見極めて、柔軟に対応していきます。

※注 語句説明

【あ】 アクセスポイント	交通機関を結ぶ重要な地区。
アメニティ	場所、気候風土、自然、景観、オープンスペース、文化的な設備、憩い、社会的環境、住民気質などの都市の人間の住み良さをいう。
ウォーターフロント	親水性に富んだ居住空間、港湾施設周辺、観光基地やレクリエーション空間等、水系に沿って整備される環境づくりのことを指す。
エコビジネス	経済効率ばかりでなく地球環境を守るような商品を開発していく産業。
オフサイトセンター	原子力災害に対応する緊急事態応急対策拠点施設。
【か】 観光サイン	観光客を誘導する看板。
グラウンドワーク	地域を構成する住民、企業、行政の3者がパートナーシップを組み、グラウンド（生活の現場）に関するワーク（創造活動）を行うことにより、自然環境や地域社会を整備・改善していく活動。
コーホート要因法	各年齢階層別の人口を、将来の自然増減要因（出生・死亡）と社会増減要因（転入・転出）を掛け合わせて推計する方法。
コミュニティ	一定の広がりを持った小学校区ぐらいの住宅地の地域的な組織化のこと。
コミュニティバス	地域住民が気軽に利用できるよう生活道路等をも走行し路線バスを補完するバス。
コンパクトシティ	都市郊外化・スプロール化を抑制し、市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圏と捉え、コミュニティの再生や住みやすいまちづくりを目指そうとする都市づくりの概念。
【さ】 自然公園	国立公園、国定公園、都道府県立自然公園の総称。いずれも、自然の風景地を保護し、利用の増進、国民の保健、休養、強化に役立てる目的で指定される。
シンボルロード整備事業	都市や地方の顔となる街路を、地域社会の象徴として整備するものである。
生産緑地地区	市街化区域内において、農林漁業との調整を図りながら良好な都市環境を形成するために、公害又は災害の防止等に相当の効用があり、かつ公共施設に供する土地として適し、農林漁業の継続が可能な条件を備えていると認められる一定規模以上の区域。

ゾーニング	都市計画において、地区を機能、用途などによっていくつかの部分に分ける作業又は過程をいう。
【た】 中央業務地区	中央業務地区（CBD地区）。
抽水域	根が水中に茎や葉が空中にある植物などが生息する水際の部分。
テーマタウン	地域の個性を主張した街。
都心軸	都心機能の集積地における骨格となる道路。
【は】 パーク＆ライドシステム	最寄り駅に自分の車を駐車して、そこからバスや電車に乗って通勤等を行う方式。
発展軸	今後の発展が見込まれる地域の中心を走る骨格道路。
プロジェクト	研究や事業などの開発計画、企画事業。
ポートサイド	港沿岸の周辺地域。
【ま】 百伝う（ももづたふ）	多くの土地を伝い渡るの意味で、古事記における「角鹿」の枕詞。
【や】 優良農地保全エリア	良好な農地が集積し、今後とも保全が必要と思われるエリア。
【ら】 ライフライン	電気・ガス・水道などの供給システム、下水道・廃棄物処理等の処理システム、更には交通や通信システムを指す。
レトロ型	古い流行のノスタルジックな魅力を現代風アレンジした様式。
【A】 NPO	営利の追求よりも社会的使命の追求を目的とした民間の組織。
WiMAX	都市程度のエリアをカバーする高速無線ネットワークの規格。
【数字】 21世紀の国土のブランドデザイン	第五次全国総合開発計画（五全総）の総称。

